會務報告

第29卷第3號 昭和18年3月

通常總會記事

昭和 18 年 2 月 15 日午後 5 時 30 分より東京市麴町區丸ノ内 3 丁目 4 番地帝國鐵道協會に於て通常總會を開催せり

出席者：83 名

會長草間 偉君座長席に着き開會を宣し下記議事に就き出席會員の承認を得たり

1. 昭和 17 年度事業報告（本號會告參照）
2. 昭和 17 年度決算報告（本號會告參照）
3. 役員選擧の結果報告

投票人員 1076 名

會長 當選 1046 票 黑河内四郎君
次點 3 票 内海清溫君
3 票 鈴木雅次君
以下略す

副會長 當選 1042 票 内海清溫君
次點 2 票 青木楠男君
2 票 黑河内四郎君
2 票 三浦七郎君
以下略す

常議員（改選） 當選 1050 票 岩澤忠恭君
1041 票 黑田靜夫君
1037 票 高木義照君
1036 票 德善義光君
1029 票 江藤 智君
1029 票 土井源三良君
1028 票 大川一郎君
1025 票 久保 讓君
1024 票 淨法寺朝美君
1023 票 鵜飼孝造君
1019 票 正子重三君
1016 票 藤芳義男君
次點 13 票 兼岩傳一君
11 票 永田 年君
10 票 本間 仁君
8 票 水谷 鎔君
7 票 最上武雄君
5 票 安藝皎一君
以下略す

常議員（補缺） 當選 1000 票 兼岩傳一君
次點 7 票 正子重三君
以下略す

4. 特定期間中入會金免除の件を上程し全會一致次の如く可決確定せり

「本會は昭和 18 年 1 月 1 日より昭和 18 年 12 月末日までに新に入會を承認せられたる正會員，准會員，學生會員に對し土木學會規則の規定に拘らず特に入會金の納付を免除することを得」

5. 土木學會名譽會員推擧の件を上程し全員一致を以て下記 3 君を名譽會員に推擧することに可決確定せり

正會員 工學博士 丹羽鋤彦君
同 工學博士 名井九介君
同 工學博士 那波光雄君

以上を以て議事を了し，引續き下記優秀論文の著者に對し昭和 17 年土木賞牌の贈呈を行ふ

土木學會誌第 27 卷第 10,11 號及第 28 卷第 3.4 號所載「河相論 主として河相と河川工法との關聯性に就ての研究」 正會員 安藝皎一君

次で草間會長の講演（別項）あり，午後 7 時 30 分閉會せり

會長講演終了後有志晩餐會を開催し，出席者 68 名にして午後 8 時 20 分散會せり（別項記事參照）

役員會

第 11 回常議員會 （昭. 18. 1. 25.）

出席者 鈴木副會長，岩崎常議員外 9 名，岡野前會長外 3 名，中村書記長，小野寺庶務主任外 2 名

報告

1. 華北支部副支部長に山中良樹君當選依囑
2. 華北支部役員異動
3. 東北支部役員異動
4. 北海道支部役員會議事其他

議事

1. 華北支部長に田淵壽郎君を依囑
2. 土木學會コンクリート調査委員會委員に藤森謙一君を依囑
3. 建設機械研究委員會委員に高木義照君，西條容

七君を依囑

4. 役員選擧投票の開票を2月6日執行することゝし立會役員に下記諸君を選定

副會長 鈴木雅次君

常議員 山下輝夫君，信澤貞治君，
瀧淵貫烈君，當山道三君

尙開票の結果は書面にて各役員に報告することゝせり

5. 華北支部昭和18年度收支豫算は原案の通り承認

6. 華北支部昭和17年度收支決算は原案の通り承認

7. 華北支部昭和18年度特別交付金を2500圓交付することゝせり

8. 北海道支部昭和18年度收支豫算を原案の通り承認

9. 北海道支部昭和17年度收支決算を原案の通り承認

10. 關西支部昭和17年度收支決算を原案の通り承認

11. 東北支部昭和17年度收支決算を原案の通り承認

12. 第4回年次學術講演會費用不足額395圓38錢を東北支部に交付することゝせり

13. 滿洲土木學會の負擔會費額を本年一月より變更することに決定

14. 昭和18年度支部交付額を別紙（省略）の通り決定

15. 昭和17年度事業報告を別紙（省略）の通り決定

16. 昭和17年度收支決算を別紙（省略）の通り承認

17. 昭和17年度土木賞牌贈呈優秀論文は次の通り決定

「河相論 主として河相と河川工法との關聯性に就ての研究」 著者 正會員 安藝皎一君

18. 土木學會名譽會員に丹羽鋤彦君，名井九介君，那波光雄君を推擧することゝし之を通常總會に諮ることゝせり

19. 入退會を別記の通り承認

臨時常議員會 （昭. 18. 2. 6.）

出席者： 鈴木副會長，青木，瀧淵，當山，信澤，山下各常議員，中村書記長，小野寺庶務主任外

昭和18年1月25日開催の常議員會に於て選任せられたる上記役員立會の下に昭和18年度役員選擧投票の開票を執行せり，其の結果總會報告次の如し

第21回理事會 （昭. 18. 2. 8.）

出席者： 草間會長，鈴木副會長，青木理事外4名
中村書記長，小野寺庶務主任

報 告

1. 日本工學會評議員會議事
2. 關西支部役員會議事
3. 關西支部總會議事
4. 東北支部役員選擧の結果
5. 本會役員選擧の結果

議 事

1. 關西支部長に高橋逸夫君當選依囑
2. 中部支部長に花井又太郎君當選依囑
3. 北海道支部長に井口鹿象君當選依囑
4. 東北支部長に西田敏夫君當選依囑
5. 建設機械研究委員會委員に加藤三重次君，糸川一郎君を依囑
6. 昭和17年潮害調査委員會委員長並に委員及幹事に次の諸君を依囑

委員長 金子源一郎君

委 員 水谷 鏘君，阿部一郎君，黑田靜夫君
菊池 明君，松尾春雄君，佐藤清一君
千秋邦夫君，市村益夫君，富田惠吉君

幹 事 石井靖丸君

7. 規格番號調査委員會委員長及委員に次の諸君を依囑

委員長 青木楠男君

委 員 杉戸 清君，大野 博君
村上永一君（幹事）

總務部記事

大東亞建設調査委員會分擔（總論）委員會（昭. 18. 1. 15.）

出席者： 山下幹事外2名，石田主査，横田，好井兩分擔委員，小野寺庶務主任

協議事項

1. 大東亞建設技術資料中，比律賓の總論，會誌登載に就き協議し第1頁の會告及資料分類表を削除し內容に對しては逐上審議を行はず原案の儘登載することゝせり

第 30 回對爆調査委員會（昭. 18. 1. 14.）

出席者：町田委員長代理，大塚委員外 12 名，小野寺庶務主任

協議事項

1. 河上委員提出資料 1-3-1 爆彈（ゲラ刷 7 頁）に對する逐上審議をなし未完分は次回引續き審議を行ふことゝせり

第 31 回對爆調査委員會（昭. 18. 1. 19.）

出席者：釘宮委員長，大塚委員外 9 名，小野寺庶務主任

協議事項

1. 河上委員提出資料 1-3-1 爆彈及 1-3-3 焼夷彈（ゲラ刷）に對する逐上審議を行ふ

第 32 回對爆調査委員會（昭. 18. 2. 4.）

出席者：釘宮委員長，奥田委員外 9 名，小野寺庶務主任

協議事項

1. 河上委員提出資料 2-5-3 防空壕及防護室，2-5-4 防彈建築（ゲラ刷）に對する逐上審議を行ふ

第 33 回對爆調査委員會（昭. 18. 2. 9.）

出席者：町田委員長代理，大塚委員外 8 名，小野寺庶務主任

協議事項

1. 河上委員提出資料 2-5-2 防護施設（ゲラ刷）に對する逐上審議を行ふ

第 10 回建設機械研究委員會（昭. 18. 1. 22.）

出席者：谷口委員長，本間第 2 部委員長，内林委員外 6 名，宮澤囑託

協議事項

1. 建設機械現在數量調査實施に先立ち内務省内に設けられたる防諜に關する委員會の諒解を求むるため之が對策に付協議

2. 委員に次の諸君を依囑することゝせり

糸川一郎君，高木義照君，加藤三重次君，西條容七君

3. 飛行場建設機械に關する小委員會を設置することとし委員に次の諸君を依囑することゝせり

糸川一郎君，高木義照君，加藤三重次君，西條容七君，森　豎吉君

4. 正子委員より提出されたる A.S.C.E., 1930 年發行の雜誌により文獻題目集を拔粹し建設機械水準調査の資料と爲すことゝせり

5. 港灣關係小委員會より外國に於ける水準調査の經過に付報告

6. 各分科小委員會は取急ぎ報告を纒める樣申合せたり

午餐會（昭. 18. 1. 19.）

土木學會地方委員内務省土木出張所長會議關係者招待

會　場：東洋軒（三信ビル）

出席者：原口神戸土木出張所長外 7 名，新井國土局長外 4 課長，大島技師外 3 名，草間會長，黒田，鈴木兩副會長，青木理事外 2 名，眞田前會長外 6 名，中村書記長，小野寺庶務主任

調査部記事

コンクリート調査委員會（第 6 回道路鋪裝コンクリート小委員會）（昭. 18. 1. 29.）

出席者：沼田委員長，吉田委員外 7 名

1. 第 2 讀會を本日より開始し第 1 條より第 16 條迄逐條審議す

コンクリート調査委員會（第 7 回道路鋪裝コンクリート小委員會）（昭. 18. 2. 5.）

出席者：沼田委員長，鈴木委員外 6 名

1. 第 2 讀會案　第 17 條より第 24 條迄逐條審議す. 第 20 條，第 23 條，第 3 次に就ては更に考慮することゝせり

コンクリート調査委員會（第 8 回道路鋪裝コンクリート小委員會）（昭. 18. 2. 12.）

出席者：沼田委員長，吉田委員外 6 名

1. 第 2 讀會案　第 25 條より第 32 條迄逐條審議す

編輯部記事

第 2 回　會誌編輯委員會（昭. 18. 2. 10.）

出席者：福田委員長，五十嵐，近藤，須之内，杉戸，丹羽，星野，最上，本間，米屋各委員，村上編輯主任，鹽谷，鈴木，梅津各囑託

1. 第 29 卷第 1 號登載原稿謝禮決定の件

2. 原稿審査報告及第 29 卷第 4 號登載原稿決定の件

3. 第 29 卷第 1 號登載論文の討議依頼先決定の件

關西支部記事

第1回役員會（昭. 18. 1. 19.）

出席者：佐藤支部長，石原商議員外7名，兵藤幹事長外2名

報告

1. 昭和18年度豫算
2. 軌道敷鋪裝用板石規格案
3. 幹事異動（退任青木信夫君　新任中島時雄君）

議事

1. 昭和17年度決算及事務報告承認
2. 昭和18年度總會の件

第16回支部總會（昭. 18. 1. 27.）

出席者：61名

議事

1. 會計報告　2. 事務報告　3. 役員選擧（下記）

支部長　高橋逸夫君

商議員　城戸鎭吉君　中原　武君　松田憲二君
安田靖一君　杉山宗次郎君　山極二郎君
井上清太郎君　伊藤政惠君　櫻井季男君

講演

1. 戰局の前途に就いて　吉田　淳君

東北支部記事

役員異動（昭. 18. 2. 1.）

支部長　新任　匹田敏夫君

商議員　新任　岡本　港君　鈴木邦彦君
千葉　劣君　吉良　巖君　上野節夫君
渡邊義道君　菅　良二君　金澤　節君
長濱時雄君　長澤達也君

北海道支部記事

第3回役員會（昭. 17. 12. 22.）

出席者：小野前支部長，杉森商議員7名，小川外幹事長外5名

議事

1. 昭和18年度支部總會開催の件
2. 次期支部長推薦の件

役員異動

支部長　新任　井口鹿象君

商議員　退任　進來　要君　千葉菊太郎君
新任　小松悌治君　渡邊　甲君

中部支部記事

役員異動（昭. 18. 1. 26.）

支部長新任　花井又太郎君

西部支部記事

役員異動

商議員新任　安藏善之輔君　佐々木銑君
豎原雄太郎君　中村光四郎君　後藤季總君
守田道隆君　田沼　實君　船本貫次君
加藤伴平君　大島太郎君　後藤久吉君

幹事長　新任　桑野實代嗣君　幹事　加納儉二君
村上　正君　武田利雄君　榎本清造君
岩永俊彦君

第1回役員會（昭. 18. 1. 23.）

出席者：星野支部長，三瀨調査部長，坂本商議員外4名，桑野幹事長外6名

議事

1. 昭和17年度決算の件
2. 昭和18年度豫算の件
3. 支部旅費規程改正の件
4. 役員引退記念品贈呈の件
5. 昭和18年度事業計畫

朝鮮支部記事

第1回役員會（昭. 18. 1. 29.）

出席者：本間支部長，伴商議員外3名，山岡幹事長外3名

議事

1. 前支部長へ記念品贈呈の件
2. 昭和17年度決算の件
3. 昭和18年度豫算の件
4. 會員入會勸誘の件

華北支部記事

役員異動

副支部長　新任　山中良樹君

評議員　新任　淺野好君　石田二郎君
上田秀正君　松本龜司君　宮本九郎君
幹事長　新任　秋草勳君　幹事　佐藤隆治君
深谷克海君　三木巧君

滿洲土木學會記事

第 7 回役員會（康. 9. 12. 26.）

出席者：坂田會長，平山前會長，本間副會長，重住常議員外 6 名，廣岡書記長外 2 名

議事

1. 康德 10 年事業實施計畫
2. 康德 10 年度豫算の件
3. 編輯部員設置の件
4. 編輯囑託の件
5. 科技聯建設研究部會役員の件
6. 書記長交代の件
7. 臨時總會開催の件，其他

日本工學會記事

第 5 回評議員會（昭. 18. 1. 21.）

議事

1. 昭和 18 年度豫算の件

其他　庶務及會計報告

通常總會晩餐會

通常總會の終了に引續いて，恒例の有志晩餐會を鐵道協會の大食堂に於て開催，出席者は新舊役員を始め一般會員有志 68 名であつた。會は和氣靄々たる内にも決戰的雰圍氣を秘め，盛會裡に進行した。

留任の鈴木副會長が先づ立たれ，今回退任される草間會長，黒田副會長，青木，堀越，岩崎の三理事を始め役員の方々の絶大なる御盡力に對し深謝する旨述べられ，特に草間會長の會員增加目標たる富士山の標高 12 365 尺を遙か突破した會員數を獲得した功績を稱へられ，又新任されました黒河内新會長，内海新副會長其の外新任及留任の役員方々は何れもその手腕俊敏にして，新會長を中心として團結し，學會の發展に寄與することは信じて疑はざる旨を述べ，現在の日本の直面してゐる重大なる決戰期にあつて帝國の勝利と本會の發展のため，乾杯してその前途祝したいと結んで着席，續いて草間前會長は退任役員を代表して挨拶，在任中の御禮と新會長及び新役員の元氣な姿に接し大いに意を强ふする旨を述べれば，黒河内新會長立たれ，新任役員の方々を代表して土木學會のため，最善を盡し，決戰下その重要性の飛躍しつゝある土木技術の發展のため挺身せんと決意の一端を述べて着席，次に吉町太郎一君が立たれ同君が校長をされてゐる室蘭高工の寄宿舍が最近類燒し，そのため上京中昔なら謹愼の身と云ふところであるがと前置され，最近學校關係の火事が多いこれは人心の弛緩とも云はれるが，之は現在の場合過度の緊張の爲と思ふ，この點會員諸士決戰下のこの時代に於て心のゆとりを忘れない樣と結べば，昭和 17 年度土木賞受賞者安藝皎一君が立たれ，今回の受賞に關する謙遜な挨拶あり，河川工學は從來勘に依り行つて來た，この勘は經驗の集積であるが，この河川を少しでも學問的に說明しやうと努力したつもりであり，この急變する時代に處して學會の力を借り，基本的な研究を深くやつて行きたいと決意を開陳した。土井源三良君が次いで立たれ，鐵道在職 21 年鐵道では大先輩と思つたら，今席の大々先輩に接し大いに青年の意氣が湧き，土木界のため大いに意を强ふしたと述べ，最近の資材の不足の人員の質の低下にも拘らず突貫工事を强行してゐる，この際技術者としての良心を或程度犧牲してやつてゐると決戰下の技術者の覺悟を披瀝して着席すれば，最後に瀧山與君が立たれ，昔と違つて今日の土木技術者は專門に分化してゐる，之は南方の島の數が極めて多く，土木技術者の少い現在に於てよくない。何んでも出來る人間を新時代は要求する，この點の教育を土木學會で擔當し，汎土木工學講習會と云ふが如きものを催されて若し技術者に何んでも出來る樣にしておいたら，南方に行く人のみならず日本の建設戰にも大に貢獻し，極めて有意義であるから，新役員諸士に御願ひすると大いに建設的熱辯を開陳された。斯くして晩餐會は盛會裡に午後 8 時 20 分散會した。

出席者（アイウエオ順）

安藝皎一君　青木楠男君　青山　清君
五十嵐醇三君　池邊稻生君　石川榮次郎君
磯海國吉君　上野有芳君　內海清溫君
江藤　智君　遠藤藤吉君　小川敬次郎君
小野諒兄君　小見喜平君　大川一郎君
大河戸宗治君　岡崎文吉君　沖鹽政次君

金古久次君　兼岩傳一君　河原直人君
北澤淳夫君　九鬼織造君　釘宮磐君
草間偉君　楠宗道君　黑河內四郎君
黑田武定君　小阪拓次郎君　小山友直君
古藤猛哉君　佐土原勳君　眞田秀吉君
柴原龍兒君　須山英次郎君　鈴木雅次君
田村與吉君　高井信一君　瀧山與君
土井源三良君　外山繁太郎君　當山道三君
德善義光君　那波光雄君　永井松次郎君
丹羽鋤彥君　西尾銈次郎君　花井又太郎君
原全路君　廣瀨一郎君　廣瀨孝六郎君

福田武雄君　古谷金一郎君　堀越一三君
前川貫一君　正子重三君　松本金吾君
三浦七郎君　茂庭忠次郎君　森田三郎君
山下輝夫君　吉町太郎一君　米元晉一君
衣斐清香君　小野基樹君　樺島正義君
君島八郎君　山本新次郎君

その他記事

土木學會誌第 29 卷第 2 號を發行成規の手續を了し會員に配布せり

入會及轉格會員

特別會員（入會）

華北房產股份有限公司　池田讓次　3 級

正會員（入會）

市山久八　西條容七

准會員（入會）

石井春生　榎本與三郎　蔡原勝一　佐藤敬治　杉本助博　鈴木薫
竹田長年　忠原良政　土谷幸雄　中田貫　大政正二郎　將亦文雄
福原正　安原繁　朝倉邦美　高橋敏郎

學生會員（入會）

安倍善雄　阿部精一　阿部仁　相澤孫兵衛　青岡仁一　荒川啓一
伊藤輝男　伊藤博志　池田良　石川卓二　石黑昌市　石森邦雄
市村敏行　上村正敏　植木宏一　遠藤豐　小川信雄　小野弘司
大泉弘　大澤宏　岡崎聰　門脇甲子　金澤友一　川上文作
川田勇　菅野善夫　關宇　木下哲治　木名瀨一夫　木村要
木村大示　木村彌夫　木谷純　菊池賢正　菊地俊一　菊地敏男
工藤正逸　齊澤謙吉　小新幸治　小林博　近藤悅次　佐藤正大
佐藤貫　齊藤明　齊藤健吉　齊藤次夫　齊藤登　櫻田孝之
清水秀夫　庄司忠夫　白川勳　進藤重太郎　菅原五郎　鈴木清
田中秀雄　泰地茂夫　高野教　高橋利通　武田幸雄　津田和藏
槻田正明　豐島善六　庄子英夫　中島三郎　中村政勝　中村光雄
中村亮雄　新井田四郎　野元匡　早坂弘人　原川久雄　針生展吉
播磨政太郎　廣川博　福來清文　藤肥京治　藤田文男　藤盛豐治
古田榮一　保崎壽　細川誠志　本郷三郎　松本英信　水野敏夫
村山茂　目黑信　山田悌次　山本努　横山勳　横田順一
吉崎匡　吉田四郎　渡部泰雄　渡邊啓　渡邊久男　安達正行
青島良一郎　淺野脩　伊藤愼太郎　江場隆　岡本宗　小林貫

小松繁　關岩男　田中次郎　中村尚　中山裕幸　兵藤明
堀場甲子郎　山崎一男　高取豐一　青木明　五十嵐三郎　伊藤實
飯野洋　庵信雄　今西三郎　岩田金生　大森八郎　岡田敏雄
樫見敏男　片山幸一　川原照雄　木村勝　木村豐　工藤清輝
沓掛克男　桑山茂　佐野幹夫　坂本進　齋藤秀雄　笹賀清一
清水滿　清水良平　庄田惇　鈴木清　高田重友　武田浩
谷本一男　拓植眞澄　礪波外志雄　時岡三千雄　中川壽治　中側郁男
中村善生　野村弘　土生誠惠　長谷川一夫　濱田偵介　東曦
東原寛　福岡保　福塚正春　前田克彦　松原輝夫　三好博
見本洸　水島英夫　水野泰介　宮岡吉人　村井健　村田賢二
孟憲達　安田與志雄　山根和衛　湯山敏德　吉倉泰夫　饗本保
相川敏春　井上憲治　井原國次郎　稻田文男　有働正行　上野義晴
江口利郎　大石正生　大國貞則　甲斐健男　片伯部章　鹿子木久則
鎌田博美　木下秋登　木村秋生　工藤典男　上妻俊光　坂梨重幸
坂本哲朗　島田資生　高野勳　竹之下淳　津留崎亮　土井三千人
中島薫　延吉一郎　萩田了　藤崎孝敏　堀坂學　前田秋襲
眞子仁　增田直一郎　增田正治　松尾操保　松本義德　水口淺治
溝田市雄　宮川勇介　百木滋　森田三郎　山内亥喜夫　山田彪
山根武雄　吉岡重松　吉田政稔　渡邊茂隆　渡邊次則　武部敏雄
堤潤三　樋口吉巳　村田薫太郎　大塚本夫　川本正身　角野宗和
坂本貢　千葉覺　秋山德治　伊藤正憲　飯森武　岩上剛司
岩崎馨　越後弘　小野文雄　緒方茂　音羽立男　門田美穂
鎌田嘉一　菅野好　北島哲治　倉若家數　佐藤廣造　鹽川幸治
柴崎正雄　柴山安雄　鈴木正男　多胡貞男　高木眞三巳　高田幸
筒井努　野中幸一　馬場榮　坂東一男　藤倉正三　町野浩
森岡高直　森田豐　八木富男　米山彰　林野博　小埜武次
喜多川濱　清水正夫　野村榮二郎　佐伯益一

正會員（轉格）

有賀峰夫　伊木茂　今泉光　小林正三　田中清　寺崎幸助
橋本進　早坂長三　別所正夫　山下竹夫　山本元輔

准會員（轉格）

飯島芳雄　山本祐親　慶村精一　山谷繁雄　畑中宗一郎

土木學會々員數　（昭. 18. 1. 29. 現在）

名譽會員	正會員	准會員	學生會員	特別會員	賛助會員	合計
2	4644	6464	1871	128	25	13134

正會員　直木倫太郎君　昭和 18 年 2 月 11 日逝去られたり　本會は靈前に弔詞を呈し恭しく哀悼の意を表したり

正會員　青山久一君　淺原重壽君　河西定雄君　小堺秀次君　古賀國彦君　秦野重義君　山本染太郎君　湯本三郎君の訃報に接す　本會は恭しく哀悼の意を表す

准會員　青木道雄君，三好貞介君の訃報に接す　本會は恭しく哀悼の意を表す

會　　告

昭和 17 年度事業報告並に決算報告

昭和 17 年度事業報告

理事	草間　偉	同	福田武雄
同	黒田武定	同	信澤貞治
同	鈴木雅次	同	岩崎瑩吉
同	青木楠男	同	山下輝夫
同	堀越一三		

昭和 17 年度事業の概要を下記の通り報告す。

1. 會　　合

昭和 17 年 2 月 16 日午後 5 時より麴町區丸ノ内 3 丁目 4 番地帝國鐵道協會に於て通常總會を開く。出席者 82 名にして會長谷口三郎君議長席に着き，昭和 16 年度事業報告並に決算報告及役員選擧の結果を報告し，次で特定期間中入會金免除の件を附議し全會一致を以て可決確定，續いて昭和 16 年度優秀論文（別記）に對し土木賞牌の贈呈を行ひ終つて谷口會長の講演「大東亜諸國の土木的經營に就て」ありたり。

前記以外本年度に於ける諸會合は理事會 22 回，常議員會 12 回，支部長會議 1 回，年次學術講演會 1 回，通俗講演及映畫會 3 回，土木學會文化映畫委員會 2 回，外人功績調査委員會 1 回，對爆調査委員會 19 回，建設機械研究委員會 9 回，會誌編輯委員會 12 回，杭の支持力公式調査委員會 3 回，土木學會用語調査常置委員會 1 回，コンクリート調査委員會 4 回，水理公式調査委員會 6 回，大東亜建設調査委員會 10 回，談話會及協議會 3 回，晩餐會 2 回，午餐會 3 回等なり。

2. 役員選擧並に理事選任及部長就任

昭和 17 年 2 月 6 日定款第 22 條に依り會長谷口三郎君，副會長吉田德次郎君，常議員青山秀雄君，井關正雄君，池野敏夫君，稻葉權兵衛君，大岡禮三君，金子　柾君，富永正義君，成瀨勝武君，廣瀨孝六郎君，藤井松太郎君，水谷當起君，目黒雄平君任期滿了並に常議員今井　周君，佐藤忠三郎君辭任に就き定款第 18 條，第 21 條及規則第 15 條に依り正會員の投票を以て選擧を行ひ當選したる役員氏名下記の如し。

會長	草間　偉君			
副會長	鈴木雅次君			
常議員	小野美造君	大槻勝雄君	岡崎三吉君	鈴木清一君
	田中　孝君	瀧淵實烈君	當山道三君	信澤貞治君
	福田武雄君	松村孫治君	山倉嘉一郎君	山下輝夫君
補缺	内山　實君	齋藤四郎君		

昭和 17 年 2 月 23 日定款第 19 條に依り常議員會に於て理事 6 名の選擧を行ひ當選したる理事氏名下記の如し。

理事	青木楠男君	岩崎瑩吉君	信澤貞治君	福田武雄君

堀越一三君　山下輝夫君

昭和 17 年 2 月 23 日規則第 23 條に依り選任せられたる各部々長氏名下記の如し。

總務部長	青木楠男君	經理部長	堀越一三君
編輯部長	福田武雄君	調査部長	信澤貞治君
法制部長	岩崎瑩吉君	東亜部長	山下輝夫君

3. 委員會設置並に委員依囑及委員會經過

(1) 委員會設置及委員依囑

昭和 17 年 1 月 12 日對爆調査委員會委員長に釘宮　磐君を依囑せり。

昭和 17 年 1 月 26 日對爆調査委員會委員に下記諸君を依囑せり。

川口克久君　牧野邦雄君　森田紀元君　渡邊和夫君

昭和 17 年 1 月 26 日建設機械研究委員會を設置せり。

昭和 17 年 1 月 26 日コンクリート調査委員會委員に下記諸君を依囑せり。

磯崎傳作君　小川敬次郎君（特別委員），篠原謹爾君（特別委員）

昭和 17 年 1 月 26 日全日本科學技術團體聯合會本會代表委員に菊池　明君を依囑せり。

昭和 17 年 3 月 9 日日本工學會本會選出評議員並に編輯委員に下記兩君を依囑せり。

評議員　青木楠男君　　編輯委員　福田武雄君

昭和 17 年 3 月 9 日會誌編輯委員會委員長及委員に下記諸君を依囑せり。

委員長	福田武雄君			
委員	五十嵐醇三君	近藤鍵武君	須之內文雄君	杉戸　清君
〃	瀧山　養君	星野陽一君	本間　仁君	最上武雄君
	米屋秀三君			

昭和 17 年 3 月 9 日建設機械研究委員會委員長及委員に下記諸君を依囑せり。

委員長	谷口三郎君	第 2 部委員長	本間源兵衛君	
委員	有馬　宏君	伊藤令二君	岩澤忠恭君	內林達一君
	內山　實君	小野一良君	尾之內由紀夫君	落合林吉君
	笠原　宏君	上關德也君	河野正吉君	佐藤輝雄君
	澁谷順作君	田中五郎君	中井秀雄君	松尾春雄君
	松村孫治君	宮地武夫君	目黑雄平君	森　豐吉君
	谷井陽之助君	山下輝夫君	湯本久右衛門君	湯本　武君
	横田周平君			

昭和 17 年 3 月 23 日會誌編輯委員會委員に岡本舜三君を依囑せり。

昭和 17 年 3 月 23 日建設機械研究委員會委員に高橋猛雄君，土井正中君を依囑せり。

昭和 17 年 3 月 23 日大東亜建設調査委員會を設置し委員長及委員に下記諸君を依囑せり。

委員長	草間　偉君			
委員	青木楠男君	青山　士君	安藝皎一君	池野敏夫君

池邊稲生君　井上隆根君　石川榮耀君　稲葉通彦君
今井　哲君　岩崎瑩吉君　上村義夫君　内海清溫君
内田莊一君　大河戸宗治君　岡田信次君　岡部三郎君
金子源一郎君　河口協介君　菊池　明君　久保田敬一君
釘宮　磐君　黑田靜夫君　黑田武定君　小林榮朗君
齋藤四郎君　坂本丹治君　笹森　巽君　眞田秀吉君
島野貞三君　末森猛雄君　鈴木雅次君　田中　豐君
高木敏雄君　高橋嘉一郎君　高橋三郎君　橋　英三郎君
辰馬鎌藏君　谷口三郎君　富永正義君　那波光雄君
中川吉造君　成瀨勝武君　丹羽鋤彦君　沼田政矩君
信澤貞治君　福田武雄君　藤井眞透君　堀越一三君
牧野雅樂之丞君　三浦義男君　宮長平作君　目黑雄平君
森田三郎君　森田富士助君　山倉嘉一郎君　山崎匡輔君
山下輝夫君　吉岡計之助君　吉田德次郎君　吉田　直君
和田重辰君　淺井政治君　五十嵐醇三君　糸川一郎君
小野一良君　小宅習吉君　大石　勇君　奥田敎朝君
片平信貴君　川村滿雄君　桑原彌壽雄君　小松雅彦君
佐藤輝雄君　杉戸　清君　高田　昭君　高野　務君
竹内俊雄君　畠山　正君　福岡慶一君　福田秀夫君
堀　武男君　本間　仁君　村上永一君　森　茂君
山田　督君　横田周平君　吉田朝次郎君　渡邊和夫君

昭和 17 年 4 月 6 日建設機械研究委員會委員に仲田聰治郎君を依囑せり。

昭和 17 年 4 月 6 日大東亞建設調査委員會委員に岩澤忠恭君を依囑せり。

昭和 17 年 4 月 6 日會誌編輯委員會委員に篠原武司君を依囑せり。

昭和 17 年 4 月 20 日建設機械研究委員會委員に下記諸君を依囑せり。

窪田　弘君　橋本規明君　水越達雄君　高畑政信君

昭和 17 年 4 月 20 日大東亞建設調査委員會委員に下記諸君を依囑せり。

秋山德三郎君　井上秀二君　岡野　昇君　田邊朔郎君
中村謙一君　野口正義君　八田嘉明君　名井九介君
齋藤　明君　布袋謙作君　安成季隆君　好井宏海君

昭和 17 年 5 月 25 日建設機械研究委員會委員會に金子從次君を依囑せり。

昭和 17 年 5 月 25 日大東亞建設調査委員會委員に下記諸君を依囑せり。

石田啓次郎君　金森誠之君　古藤猛哉君　鮫島　茂君
高井信一君　三浦七郎君　東　壽君　新井義輔君
市村益夫君　内山　實君　小倉宏三君　尾之内由紀夫君
岡崎三吉君　後藤正三君　富田惠吉君　友永和夫君

南保 賀君 山岡包郎君 米屋秀三君 渡部時也君

昭和 17 年 6 月 8 日對爆調査委員會委員に大塚全一君，鹿島邦夫君を依囑せり。

昭和 17 年 7 月 6 日大東亜建設調査委員會委員に草間康二君を依囑せり。

昭和 17 年 8 月 17 日大東亜建設調査委員會委員に藤森謙一君，宮地卓藏君を依囑せり。

昭和 17 年 9 月 21 日世界動力會議大堰堤國際委員會本會選出委員に內海清溫君，目黑雄平君（幹事）を依囑せり。

昭和 17 年 10 月 26 日全日本技術團體聯合會本會代表委員に山下清吉君を依囑せり。

昭和 17 年 10 月 26 日建設機械研究委員會委員に一木保夫君を依囑せり。

昭和 17 年 11 月 24 日對爆調査委員會委員に谷川會治君を依囑せり。

昭和 17 年 12 月 7 日會誌編輯委員會委員に丹羽良彥君を依囑せり。

昭和 17 年 12 月 7 日日本工學會第 5 回大會本會選出委員に青木楠男君，菊池 明君を依囑せり。

(2) 委員會の經過

土木學會文化映畫委員會 關係各方面と連絡を圖り映畫作製の指導，記錄映畫又は文化映畫の製作並に上映等の事業を行ひつゝあり。

外人功績調査委員會 明治以後我國に盡せる土木關係外人の遺功を調査し，之を後世に傳へる目的を以て本委員會を設置し，以來鋭意其の調査を進め昭和 17 年 2 月「明治以後本邦土木と外人」を刊行し關係方面に之を配布せり。

對爆調査委員會 防空土木施設に關する恒久對策の資料たらしむるため，內地，外地に於ける凡ゆる文獻を集蒐し之を抄錄發表する目的の下に，委員會設置以來鋭意之が調査を行ひ，數次に亙り土木學會誌に發表し引續き調査を進めつゝあり

建設機械研究委員會 我國建設機械力の充實，水準の向上，生產の增大等之が標準化の調査研究を目的とし，委員會設置以來，日本學術振興會の援助を得て鋭意調査研究を進めつゝあり。

會誌編輯委員會 專ら土木學會誌の編纂に關し審査し傍ら會誌內容の改善に就き攻究しつゝあり。

杭の支持力公式調査委員會 文獻其他に依り世界各國が現在使用しつゝある，摩擦杭の支持力公式並に本邦に於て實驗の杭打試驗に依り，妥當性，適用性を明にせんとし，委員會設置以來鋭意調査研究を進め漸く成案を得て之を發表するに至りたるを以て解散せり。

土木學會用語調査常置委員會 本委員會事業は一應終了を見るに至りたるを以て解散せり。

土木學會コンクリート調査委員會 無筋コンクリート標準示方書の制定に對し調査研究の結果，一般構造物部門に關する示方書の成案を得て之を發表し，堰堤及鋪裝部門に關する示方書に就て引續き調査研究を進めつゝあり。

水理公式調査委員會 從來の公式を檢討整備して其の使用に當り適正を期するため，公式名稱，用語，記號の統一等に就き委員會設置以來，河川及溪流，溝渠，管路，海波の 4 部門に分ち鋭意調査研究を進め漸く成案を得て之を發表するの運びに至りたるを以て解散せり。

大東亜建設調査委員會 本委員會は時局の重大性に鑑み既設の時局對策委員會，東亜調査委員會，東亜連絡委員會を發展改組し專ら大東亜共榮圈に於ける土木建設の適切なる方策を調査研究して大東亜建設に資せんとするにあり，委員會設置以來其の研究調査を進めつゝあり。

4. 支部長就任

昭和 17 年 2 月 9 日土木學會關西支部長任期滿了に就き改選の結果佐藤利恭君當選就任せり。

昭和 17 年 2 月 9 日土木學會東北支部長任期滿了に就き改選の結果西田敏夫君當選就任せり。

昭和 17 年 2 月 9 日土木學會中國四國支部長佐土原 勵君退任に伴ふ後任選擧の結果大島六七男君當選就任せり。

昭和 17 年 6 月 8 日土木學會西部支部長金森誠之君退任に伴ふ後任選擧の結果松尾守治君當選就任せり。

昭和 17 年 6 月 22 日土木學會中部支部長田淵壽郎君退任に伴ふ後任選擧の結果永田民也君當選就任せり。

昭和 17 年 9 月 7 日土木學會華北支部長三浦七郎君退任に伴ふ後任選擧の結果郡　新一郎君當選就任せり。

昭和 17 年 11 月 9 日土木學會朝鮮支部長任期滿了に就き改選の結果本間孝義君當選就任せり。

昭和 17 年 12 月 7 日土木學會華北支部長郡　新一郎君逝去に伴ふ後任選擧の結果田淵壽郎君當選就任せり。

昭和 17 年 12 月 7 日土木學會西部支部長任期滿了に就き改選の結果星野茂樹君當選就任せり。

5. 記念基金寄附

昭和 17 年 9 月 15 日故前會長中川吉造君遺族より記念基金として金 3 000 圓寄附ありたり。

6. 會誌其の他の發行

昭和 17 年度中土木學會誌第 28 卷第 1 號より第 12 號まで並に明治以後本邦土木と外人，鐵筋コンクリート標準示方書及同解說を發行せり。

7. 登記並に申請事項

昭和 17 年 2 月 16 日通常總會に於ける理事（會長，副會長）の改選及資產の總額を金 199 678.34 圓と變更の件は同年 3 月 6 日其の登記を了せり。

昭和 17 年 2 月 20 日常議員會に於ける理事 6 名改選の件は同年 3 月 6 日其の登記を了せり。

昭和 17 年 9 月 18 日日本學術振興會に對し建設機械研究事業援助方を建築學會と共同にて申請し同年 11 月 5 日援助補助金年額 1 500 圓の決定通知ありたり。

8. 土木賞牌贈呈

土木學會誌第 27 卷第 11 號に登載せる正會員內海清溫君著「玉石交り砂礫層の河川に設けたる取水堰基礎止水壁潛函工事の一例」と題する論文に對し昭和 16 年度土木賞牌を贈呈せり。

9. 年次學術講演會

昭和 17 年 10 月 10 日，11 日の兩日第 4 回年次學術講演會を仙臺市東北帝國大學及仙臺高等工業學校講堂に於て開催，特別講演及發表論文 50 題に及び極めて盛大に擧行せられたり。

10. 支部事業の概要

昭和 17 年度中に於ける支部事業の概要下記の如し。

關西支部　昭和 17 年 1 月 31 日中央電氣倶樂部に於て第 15 回支部總會を開き昭和 16 年度事業及決算報告を爲し次で役員の選擧を行ひ，引續き鳥越海軍大佐の講演ありたり。

前記の外諸會合役員會 7 回，土曜會（前支部長會）5 回，幹事會 3 回，關西大會 1 回，講演會 3 回，土木工學研究會 1 回，研究會 2 回，座談會 4 回，委員會 16 回，視察見學旅行 2 回なり。

東北支部　昭和 17 年 5 月 9 日八戸市石田屋に於て第 5 回支部總會を開き昭和 16 年度事業及決算報告を爲

し次で講演及視察見學を行ひたり。

前記の外諸會合役員會 4 回，幹事會 6 回，委員會 9 回，視察旅行 1 回，講演會 1 回，懇談會 2 回なり。

北海道支部　昭和 17 年 1 月 24 日札幌商工會議所講堂に於て第 5 回支部總會を開き昭和 16 年度事業及決算報告を爲し次で支部長の改選を行ひ引續き講演及映畫會を催したり。

前記の外諸會合役員會 4 回，幹事會 4 回，講演會 2 回，土木技術講演會 1 回，見學會 2 回なり。

中部支部　昭和 17 年度中に於ける諸會合は役員會 3 回，委員會 1 回，講演及映畫會 2 回，視察見學旅行 1 回，其他 2 回なり。

西部支部　昭和 17 年 11 月 29 日福岡市大和ホテルに於て第 4 回支部總會を開き昭和 16 年度事業及決算報告を爲し次で講演會を催したり。

前記の外諸會合役員會 3 回，幹事會 4 回，講演會 1 回，土木技術講習會 1 回，視察旅行 1 回なり。

朝鮮支部　昭和 17 年 10 月 10 日朝鮮遞信事業會館に於て第 3 回支部總會を開き昭和 16 年度事業及決算報告を爲し次で役員選擧を行ひ引續き同所に於て講演及映畫會を催したり。

前記の外諸會合役員會 3 回，幹事會 6 回，視察旅行 1 回，講演會 1 回なり。

華北支部　昭和 17 年度中に於ける諸會合は役員會 2 回，幹事會 5 回，委員會 2 回，特殊技術講習會 1 回なり。

中國四國支部　昭和 17 年 5 月 17 日岡山市岡山銀行集會所に於て第 2 回支部總會を開き昭和 16 年度事業及決算報告を爲し次で昭和 18 年度總會開催豫定地決定の件及廣島高等工業學校夜間部に土木科設置方其筋に陳情の件を決議せり。議事終了後引續き同所に於て講演會を催したり。

前記の外諸會合役員會 1 回，幹事會 2 回，講演會 1 回なり。

11. 會員數

昭和 17 年度に於ける入會者は正會員 696 名（內准會員より轉格したる者 421 名），准會員 1 489 名（內學生會員より轉格したる者 949 名），學生會員 1 109 名，特別會員 9 名合計 3 303 名にして死亡者は正會員 48 名，准會員 47 名，學生會員 9 名，合計 104 名，退會者は正會員 36 名，准會員 73 名，學生會員 19 名，特別會員 17 名合計 145 名なり。

而して昭和 17 年 12 月末日に於ける現在數は名譽會員 2 名，正會員 4 644 名，准會員 6 481 名，學生會員 1 616 名，特別會員 128 名，贊助會員 25 名，合計 12 896 名なり。

昭和 17 年度決算（自昭和 17 年 1 月 1 日 至昭和 17 年 12 月 31 日）

理事	草間　偉	同	福田武雄
同	黑田武定	同	信澤貞治
同	鈴木雅次	同	岩崎鑑吉
同	青木楠男	同	山下輝夫
同	堀越一三		

普通經費

收入之部	円	支出之部	円
1. 會費	74 772.03	1. 事務費	32 391.63
1. 雜收入	7 996.41	1. 會誌費	48 980.00

1. 組入金	11 722.03	1. 會議費	1 870.36
合計	94 490.47	1. 負擔金	422.48
		1. 交付金	10 826.00
		合計	94 490.47

特別經費

收入之部	円	支出之部	円
1. 會費	20 958.30	1. 事業費	13 456.08
1. 雜收入	3 757.92	1. 交付金	8 929.16
1. 組入金	9 737.66	1. 諸費	12 068.64
合計	34 453.88	合計	34 453.88

事業資金

收入之部	円	支出之部	円
1. 滿洲土木學會負擔金	11 975.60	1. 普通經費ヘ組入	11 722.03
1. 前年度繰越金	36 123.04	1. 特別經費ヘ組入	9 737.66
合計	48 098.64	1. 翌年度ヘ繰越金	26 638.95
		合計	48 098.64

基金

收入之部	円	支出之部	円
1. 前年度繰越金	148 061.89	1. 翌年度ヘ繰越金	152 188.98
1. 組入指定利子	287.09		
1. 記念基金受入	3 000.00		
1. 一時納付會費受入	840.00		
合計	152 188.98		

基金內譯

		円			円
故古市公威，沖野忠雄兩博士記念基金		21 883.43	故坂本雅雄君記念基金		550.49
故白石直治博士	〃	19 456.81	故川上浩二郎博士	〃	1 007.27
故山崎鉉次郎博士	〃	2 061.18	故中山秀三郎博士	〃	2 033.33
故原田貞介博士	〃	4 027.68	岡崎文吉博士	〃	1 116.67
故廣井　勇博士	〃	9 632.23	故野口誠君	〃	1 000.00
故小川梅三郎博士	〃	1 357.11	故中川吉造博士	〃	3,000.00
故富田保一郎博士	〃	676.20	故廣井勇博士土木賞牌基金		628.75
故石黑五十二博士	〃	8 674.76	故古市公威博士	〃	515.78
故近藤虎五郎博士	〃	6 566.76	故來島良亮君	〃	511.83
故中島鋭治博士	〃	3 939.31	故中川秀三郎博士	〃	508.33
故阪田貞明君	〃	1 513.96	故物部長穗博士	〃	600.00

故岡崎芳樹博士記念基金	2 407.33	積立基金	33 333.00
故太田圓三君 〃	3 186.77	關西支部維持基金	22 000.00
		合　計	152 188.98

資産負債對照表（昭和 17 年 12 月 31 日現在）

資産之部	円	負債之部	円
1. 有價證券	99 890.00	1. 基金	152 188.98
1. 信託預金	39 500.00	1. 事業資金	26 638.95
1. 定期預金	10 000.00	1. 圖書備品及未收入金繰越金	24 728.96
1. 振替貯金	12 965.44	1. 假受金	476.81
1. 特別當座預金	3 661.95	合　計	204 033.70
1. 當座預金	1 204.79		
1. 圖書及備品	5 925.26		
1. 滿洲土木學會負擔金	11 975.60		
1. 未收入金	18 803.70		
1. 現金	106.96		
合　計	204 033.70		

財産目錄

資産負債對照表資産之部と同一に付省略す。

會　　告

昭和 18 年度土木學會役員氏名報告

會長	工學博士	黑河內四郎君	(新任)
副會長	工學博士	鈴木雅次君	(留任)
同	工學士	內海清溫君	(新任)
常議員	工學士	岩澤忠恭君	(新任)
同	工學士	鵜飼孝造君	(新任)
同	工學士	江藤智君	(新任)
同	工學士	小野美造君	(留任)
同	工學士	大川一郎君	(新任)
同	工學士	大槻勝雄君	(留任)
同	工學士	岡崎三吉君	(留任)
同	工學士	兼岩傳一君	(新任)
同	工學士	久保讓君	(新任)
同	工學士	黑田靜夫君	(新任)
同	工學士	淨法寺朝美君	(新任)
同	工學士	鈴木清一君	(留任)
同	工學士	高木義照君	(新任)
同	工學士	瀧淵實烈君	(留任)
同	工學士	土井源三良君	(新任)
同	工學士	當山道三君	(留任)
同	工學士	德善義光君	(新任)
同	工學士	信澤貞治君	(留任)
同	工學博士	福田武雄君	(留任)
同	工學士	藤芳義男君	(新任)
同		正子重三君	(新任)
同	工學士	松村孫治君	(留任)
同	工學士	山倉嘉一郎君	(留任)
同	工學士	山下輝夫君	(留任)

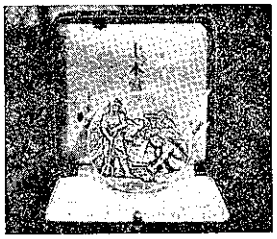
會　　告

昭和 17 年度土木賞牌受賞者報告

土木學會誌第 27 卷第 10, 11 號及第 28 卷第 3, 4 號所載

河相論 主として河相と河川工法との關聯性に就ての研究

正會員 安 藝 皎 一 君



土 木 賞 牌

會　　告

寄稿者へのお願ひ

本年度の本會誌用紙に對する割當數量は會員數の增加にも拘らず前年度に比し相當大幅の減配となり，從つて會誌頁數も今後相當に減少せざるを得なくなりました。就ては此際會誌內容の低下を防止するのみならず進んで之を充實し，以て會員各位の御期待に沿ひ且つ會誌の戰時體制化を促進致し度く，寄稿者各位に於いて別記投稿規定のうち特に下記に御留意御嚴守の上，從來にも增して簡明有益なる論說報告，彙報，時報等を御寄稿下さる樣お願ひします。

---

1. 論說報告の頁數は圖表等を含み本會誌 15 頁（原稿用紙 90 枚）以內とされたし，圖表等は原稿用紙の相當枚數に換算の上御執筆願ひたし。前記頁數を超過する場合には登載をお斷りすることがあります。
2. 圖表類は代表的なもの又は特に必要なるもののみにとゞめ；類似のものを多數羅列するを避けられたし。
3. 別刷は從來通り 30 部を贈呈致します。但し之以上の御申込は遺憾ながらお斷り致します。

（尙詳細は卷末の寄稿に關する注意を御覽下さい）

會　　告

會費拂込に就て

3 月は第 1 期分會費の納入期でありますから，御手數ながら振替貯金又は便宜の方法にて御拂込を願ひます。

尙支那其他外國に在住せらるゝ方は日華爲替，國際爲替，軍事爲替又は銀行經由等に依り御送金を願ひます。

昭和 18 年度第 1 期分會費（1 月～6 月）

正　會　員	6.00 圓
准　會　員	4.50 圓
學生會員	3.00 圓

黑河内四郎

會長
工學博士
黑河内四郎

鈴木雅次

副會長
工學博士
鈴木雅次

内海清温

副會長
工學士
内海清温

正　誤　訂　正　表

橋脚による河床洗掘に關する實驗的研究（第 3 編）
（第 28 卷第 11 號所載）

頁	行	誤	正
974	上 3 及脚註 2	57)	**
975	表-33 中の下 2	7.5×3.73	7.5×3.75
〃	表-34 中の上 2	30×1.5	30×15
976	圖-61 の表題	實驗 H_{uI}	實驗 H_{nI}
978	上 2	次いで t' も	次いで $t_{y'}$ も
〃	上 6	漸減するが,	漸增するが,
979	表-36 中の下 3 左 5	2.17	2.21
980	上 3	全者は	兩者は
981	表-38 中の上 1		左 3,4,5,7,9 列の上に * を附ける
〃	表-38 中の左 2	(p) (q) (r) (s) (t) (u) (a) (b)	(p) (q) (r) (s) (t) (u) (a) (b)
〃	表-39 中の上 1 右 2	(sec)	(min)
982	表-42 中の下 2 左 3	25	0.25
986	上 7 及 8	圖-55～59	圖-54～58
〃	上 18	53.52 g/m²	53.22 g/m²
987	上 15	52 cm	5.2 cm
989	上 7	k となり,	k_y となり,
990	下 7	橋脚洗端	橋脚先端
992	上 1	降下高 S_y	降下高 s_y
〃	上 4～5	後側 $S_{r'}, S_{t'}, A_{u'}$	後側 $S_{r'}S_{t'}A_{u'}$
〃	脚註下 3	Belgigue	Belgique
993	上 8	$\frac{1}{g}\int_A^S \times (v^2/\rho)ds$	$\frac{1}{g}\int_A^S (v^2/\rho)ds$
〃	脚註上 1	Mo ellversuche……d,	Modellversuche……d.
995	下 10	I_p と	I_P と
〃	(20) 式	$\left(\frac{1-\rho_1^2}{\rho_2^2}\right)$	$\left(1-\frac{\rho_1^2}{\rho_2^2}\right)$
997	上 7	dc を	dC を
〃	上 9	$\int_{\rho_1}^{\rho_2} dC$	$\int_{\rho_1}^{\rho_2} dC \cdot d\rho$
999	(24) 式	$z_A+\frac{P_A}{w_0}+\frac{v^2{}_A}{2g}=z_S+\frac{P_S}{w_0}+\frac{v_S^2}{2g}$	$z_A+\frac{p_A}{w_0}+\frac{v_A^2}{2g}=z_S+\frac{p_S}{w_0}+\frac{v_S^2}{2g}$
〃	下 6	$\alpha p/w_0$	dp/w_0
1000	下 14	圖-24 の如き	圖-24 の如く
1002	表-45 の表題	及 C に於ける	及 C_1 に於ける
1003	(27) 式	$=n^{M-1}m^{-1/2}n^{7/6}$	$=n_M^{-1}m^{-1/2}n^{7/6}$
1004	脚註 1	$\nu=(w-w_0)/w'-w_0)$	$\nu=(w-w_0)/(w'-w_0)$
1006	上 14	の下に實驗項目	の下に實施した實驗項目